

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	N.S.	学部・学科	国際商学部国際商学科
学年	4年	派遣国	ドイツ
派遣大学	ゲーテ大学		
期間	2023年 9月 2日～ 2024年 8月 27日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	○	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (150,000) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (15) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	25,000円	スーパー、外食
学用品購入費	1,000円	ドイツ語の教科書(月割りにしました。)
交通費	0円	
交際費	44,000円	
その他	80,000円	寮費、保険費など
合計	150,000円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

大学周辺、私の住んでいたエリアなどは至って平和で、ホームレスも見かけなかった。ただ、フランクフルト中央駅や hauptwache など栄えているところは様々な人がいた。とは言っても、何かされたという経験は全くなく、夜の外出も友達と普通に楽しめた。変な人がいてもとにかく無視、見えていないふりをしたり、聞こえていないふりをしていた。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	() 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	TK 保険		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	(月 20,800) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (フランクフルト) フランクフルトはライン川沿いにある中央ドイツの都市で、欧州中央銀行がある金融都市。ヘッセン州最大都市で、人口は 75 万人である。 現在のフランクフルトは国際金融の中心地であり、国内の工業と商業の中心でもある。ドイツを代表する世界都市の 1 つであり、ヨーロッパ中央銀行など、様々な金融機関の中心が集まっている。その反面で、レーマーベルク広場やライン川沿いなどドイツの文化や歴史を感じられる街並みもある。 電車から 1 時間以内でいくつかの小さな市に行くこともでき、空港も近くにあるため、他国に行くのも容易い。
--

【学業編】

1. 大学情報

大学	ゲーテ大学	所在地	フランクフルト
最寄空港	フランクフルト空港	空港からの距離	
空港⇄大学	(S8,9 に乗って hauptwache まで、その後 U1,2,3,8 に乗り換え最寄り駅まで行く) *移動手段		
学生数	約 47,000 人	留学生数	約 7,000 人
学部	法学部、経済学部、社会学部、教育学部、心理学部、体育学、副温主義神学、カトリック進学、哲学・歴史学、言語学・文化学、文献学、地学/地理学、情報科学・数学、物理学、生化学・化学・薬学、生物学、医学 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	経済経営学部 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Economic Growth - Development and Inequalities	Financial Risk Management	隔週:Economic Growth - Development and Inequalities	Financial Risk Management
午後	Leadership in the Financial Industry その後友達と飲みに行く		図書館で勉強 AkadeMI 夜は友達と遊ぶ	AkadeMI	図書館は早めに切り上げ、友達と遊ぶ

② (4)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	図書館	図書館	図書館	図書館	図書館
午後	Microeconomics of Climate Change The economics of Labor Markets 友達と飲み。	AkadeMI	隔週 Microeconomics of Climate Change	AkadeMI	隔週 The economics of Labor Markets 友達と遊ぶ。

3. 履修内容

科目	Leadership in the Financial Industry		
履修期間	冬学期	単位数	6
授業内容／形態	<p>横浜市立大学のリーダーシップの授業と似たような内容。リーダーシップとは何か、どのような要素があるのか、組織においてどのような役割を果たすのかについてレクチャーをうけ、またケーススタディで実質的に学んでいく。特に、金融関係の組織についてのリーダーシップについて学ぶことができる。また、時にはゲストレクチャーを招くこともある。</p> <p><授業形態> 講義とケーススタディでのグループワーク、その後の簡易的なプレゼン。 <学生数> 200 人</p>		
成績	なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Economic Growth -Development and Inequalities		
履修期間	冬学期	単位数	6
授業内容／形態	<p>GDP や収入、生産関数などを通して先進国と発展途上国の違いを解釈する方法を学ぶ。経済成長と不平等の分析について学ぶ。国ごとの所得や成長率のばらつきが、国ごとの要素蓄積や生産性のばらつきによってどのように説明できるか。</p> <p><授業形態> 毎週の講義と 2 週間に一回のレクチャー。 <学生数> 182 人</p>		
成績	なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Financial Risk Management		
履修期間	冬学期	単位数	6
授業内容／形態	<p>金融におけるあらゆるリスク、そしてそのリスク回避について学ぶ。基本的には先生が話していることが多いが、時折ケーススタディがある。</p> <p><授業形態> 講義形式 <学生数> 約 190 人</p>		
成績	なし		

YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	AkadeMI B		
履修期間	通年	単位数	12
授業内容／形態	冬・夏の Pre-semester とセメスター中に A2 レベルのドイツ語の授業を受けていた。コミュニケーションも文法も学べるような授業の方法だった。 <授業形態> セミナー形式 <学生数> 20 人		
成績	なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	The economics of Labor Markets		
履修期間	夏学期	単位数	6
授業内容／形態	内容はまさに名前の通り。実際に面白いのですが、数式を多用する授業であるため、テストは大変だろうと今から少し心配です。しかし、授業は3つだけなので、何とか頑張っていきたいです。 <授業形態> 毎週の講義と隔週のレクチャー <学生数> 152 人		
成績	なし		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Microeconomics of Climate Change		
履修期間	夏学期	単位数	6
授業内容／形態	環境問題に関する経済学はドイツの大学だからこそより深く学べるかなと考え、履修。覚えることは非常に多そうだが、テストのことを考えるとまだ太刀打ちできそうだなと思い、決意。 <授業形態> 毎週の講義と隔週のレクチャー <学生数> 177 人		

成績	なし	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目		
履修期間		単位数
授業内容／形態		
成績		
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目		
履修期間		単位数
授業内容／形態		
成績		
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

<総括>

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

1年間のドイツ留学は、もちろん新しい刺激もあったが、今までの日本での生活や暮らし方、学び方を振り返ることが多くあった。

12ヶ月ドイツにいて得たものを生活面と学習面で分けて述べる。

生活面では、与えられた環境の中で、自然や季節を存分に楽しむようになった。金融都市として他のドイツの都市よりも栄えているフランクフルトとはいえ、横浜や東京に比べるとやることは限られてくる。さらにドイツの冬はとにかく暗い。気が滅入りそうな中で、できるだけ友達と会うようにした。映画ナイトをしたり、ワインを飲みながらキャンドルにお絵描きしたり。もちろん悪天候から逃げるようにみんなで何度もパーティーを開いた。日本では全くしなかったことをたくさんした。春になると毎日散歩をしたり、マイン川の側で寝そべって過ごしたりすることが増えた。日本ではバイトや買い物で忙しく過ごしていたが、ドイツに来てからゆっくりと流れる時間を楽しむのも良いなと思った。友達との関係も深まるし、何より小さいことに幸せを見出せるようになった。最初は、友達の会話について行くのに必死で発言できなかったが、根気よくくらいついた結果、今では英語での会話に困ることがなくなった。友達との話題は、日本とは大きく変わらないが、お互いに留学生である分、それぞれの国の話や政策の話をすることもあったため、日本の政策について改めて考えるきっかけになった。また、親友と言えるほどの友達に巡り会えたことは今後の財産になるだろう。

学習面では言語と知識の2点で得たものがあった。言語での最も大きな収穫は、やはりドイツ語への理解ができるようになったことだろう。留学先にドイツを選んだ理由は、英語が第一言語ではないことが1つにある。授業や友達との会話で英語を使うため、私生活で他の言語に触れることができるのは良いなと思った。結果、完璧ではないが、何も知らなかったレベルから今は意味を推測したり、スーパーなど簡単なコミュニケーションをしたりできるレベルになった。また、英語での授業についてであるが、最初はとても大変だった。初めはそもそも友達との会話も完璧ではなかったため、90分~3時間も難しい英語を聴いて理解し、時には議論をするというのは不可能に近かった。しかし、夏学期では自然と言っていることが頭に入ってくるようになった。さて、知識についてだが、私は全くの無知であると知った。他の留学生たちは必死に授業内容を勉強しているが、私はその基礎知識すらついていないということばかりだった。1から学ぶつもりで必死に授業に食らいついた。経済学部だからか、授業の休み時間は時折投資の話になることもあった。日本の高等教育のレベルを痛感しながらも、私自身をもっと学ぶ必要があると痛感した。

渡航して数ヶ月は、全てが新しく刺激的なことばかりだったが、その後は自分の今までのスタイル(生活も勉強も)について見直すことができたのは、長期留学だったからこそだと思う。また、誰かの体験記や本で読んで知るだけでなく、実際に経験したからこそ真に見直すことができたと思う。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

まずは、留学で存分に広げた知見や英語力を低下させることなくどんどん広げていきたい。ドイツに来てから日本語字幕なしでYouTubeや映画を見ることが増え、ネット検索も時には英語でするようになった。このような習慣は今後も続けていきたいと思っている。また、留学でできた他国の友達と頻りに連絡を取り、お互いの国に旅行するつもりだ。

将来的な展望についてだが、4年の後期からの留学だったため、留学中に就活を終えた。留学で得たいろいろな知識や感覚、話術を存分に活かし、さらには伸ばしていける業界であるため、ここで存分に力を伸ばしていきたい。また内定をいただいている企業はフランクフルトにも会社があり、実際にそこで働いている日本人の方と話して、一度はフランクフルト支社(もちろん他の国の支社でも)で働いてみたいと思った。

留学が終わった後は、急速に英語力が落ちたり今までの経験が全てなかったように元に戻ったりすることが多いが、そのようなことがないように常に自分から情報や機会を求めて行くようにしたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

感想の部分でも述べたが、長期留学だったからこそ刺激や新経験を得るだけではなく自分を見直すきっかけを持つことができた。また、それは誰かの体験記や本で読んで知るだけでなく、実際に自分が経験したからこそ自分ならではの気づきがあった。

ドイツの留学に限らず、渡航直後は、留学先での交友関係や言語での悩み、学業での悩み、そもそもの異国での生活に関しての悩みなど、乗り越えるべきことが一気に押し寄せると思う。それは当然のことであるから、そんなに悩みすぎず、時が解決するというスタンスで(かといって何も対処しないのはいけないが)、異国での生活を存分に楽しむと良いと思う。

また、特に3,4年生での留学を考えている人に向けてアドバイスをしたい。外国からオンライン就活をするのは時差や学業との両立などの面で大変かもしれないが、時差を逆手に取り、優先順位を考えて取り組めば問題ない。私は、4年後期に交換留学をし、就活はドイツにてオンライン上で行い、ロンドンキャリアフォーラムというイベントに観光も兼ねて行った。結果、自分が目指していた企業で内定をもらうことができた。日本での現地就活ができないというハンデがあるため、2年生から自己分析や業界理解などは行っていたが、実際に力を入れ始めたのは4年の12月ごろである。時差の問題については、面接や説明会はドイツ時間8~11時のものを選び、日中は面接対策やES提出をしたことで、日本で就活をするよりも効率的に動くことができた。また、学業との両立についてだが、私は卒業単位も大体取り終わっていたため、優先順位を考えて就活を優先した。もちろん授業時間は学業に100%の力を注ぐが、それ以外では就活を第一優先にすることで、納得した就活ができた。